客観的データによる2040年の市町村別状況を見据えた類型化

【３類型の考え方】

各市町村の「地理的状況」、2040年に向けた「人口構造」・「医療・介護需要」の将来推計を基本に3類型に分類

類型		市町村	地理的状況	人口構造（2040年）			※　医療需要予測指数			介護需要予測指数		
				85歳以上人口（2020年=100）	生産年齢人口（2020年=100）	2040年の65歳以上人口÷生産年齢人口（人）	2030年（2020年=100）	2040年（2020年=100）	2040年以降	2030年（2020年=100）	2040年（2020年=100）	2040年以降
A 都市型	特徴		85歳以上人口が約２倍弱の増、生産年齢人口は約２割減				医療需要は「横ばい」、介護需要は「微増」					
	Ⅰ	京都市	京都市及び京都市と一体のコンパクトな地域	165	84	0.6	103	102	→	116	115	↗
		向日市		202	84	0.6	104	103	→	121	116	↗
		長岡京市		187	86	0.6	102	100		118	111	
		大山崎町		169	94	0.5	103	100		112	103	
	Ⅱ	福知山市	京都市から離れ独立完結	128	82	0.7	99	96	↘	111	109	↗
		舞鶴市		133	72	0.7	95	87		108	98	↘
B 住宅街型	特徴		85歳以上人口が約２倍強の増、生産年齢人口の最大４割減				医療需要は「横ばい～微増」、介護需要は「微増～大幅増」					
	Ⅰ	京田辺市	学研都市地域	225	92	0.5	109	113	↗	128	129	↗
		木津川市		237	97	0.6	114	120		141	148	
		精華町		249	72	0.8	108	111		139	150	
	Ⅱ	宇治市	京都市に近接したコンパクトな地域	194	73	0.8	101	95	↘	120	113	↗
		城陽市		214	73	0.8	99	88		120	101	→
		八幡市		231	72	0.8	101	95		126	115	↗
		久御山町		209	72	0.8	98	89		123	105	→
		井手町		154	60	1.0	96	85		114	104	↘
		宇治田原町		208	65	0.9	103	98		130	130	→
		亀岡市		210	71	0.8	103	96		130	125	
C 中山間地型	特徴		85歳以上人口は維持～1.5倍増、生産年齢人口は最大７割減				医療需要は「微減～大幅減」、介護需要は「横ばい～微減」					
	Ⅰ	南丹市	京都市から離れた過疎地域	126	72	0.8	97	90	↘	109	104	↘
		京丹波町		120	49	1.5	90	75		105	90	
		綾部市		114	71	0.9	92	82		102	89	
		宮津市		112	56	1.3	90	75		102	88	
		京丹後市		116	60	1.1	93	82		104	96	
		伊根町		95	65	1.2	87	69		97	79	
		与謝野町		126	56	1.2	93	82		107	99	
	Ⅱ	笠置町		126	33	2.4	83	62	↘	97	75	↘
		和束町		166	42	1.8	91	71		114	94	
		南山城村		153	43	1.8	90	69		107	86	
全国値（参考）				162	82	0.6	112	101	→	117	117	↗

出典：「人口構造」 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来人口推計」、「医療介護需要予測指数」 日本医師会「地域医療情報システム」

※　2015年の医療費、介護サービス費用と将来人口推計から各年の需要量を推計し、2020年国勢調査に基づく需要量＝100として指数化
2040年の指数値が2020年と比べ、「±15以内は横ばい」、「±16～±20を微増・減」、「±21以上を大幅増・減」と表した